

秘1例, 悪心1例, 薬疹1例を認め薬疹1例と悪心1例で投与を中止した。

【結語】イトラコナゾール内用液はカプセル製剤よりも有害事象は多いものの, 口腔カンジダ症に対する有効性は高かった。

5 *Candida krusei*が原因と考えられた術後腹腔内感染症の1例

小原 竜軌・塚田 弘樹・松下 宏*

倉林 工*・横山 直行**

大谷 哲也**・片柳 憲雄**

新潟市民病院感染症科・呼吸器科

同 産婦人科*

同 外科**

症例は37歳, 女性。2008年1月頃から下腹部膨満感が出現したため1月30日A病院受診。同院で卵巣腫瘍, 子宮体癌及び糖尿病と診断され加療のため当院紹介。当院産婦人科に2月28日入院, 3月7日予定手術のところ3月5日に乏尿, ショック状態になり卵巣腫瘍の穿孔による腹膜炎が疑われ, 緊急に子宮全摘術及び付属器腫瘍摘出術施行。手術時に十二指腸潰瘍穿孔が判明し, 胃全摘術及び十二指腸切除も施行された。術後集中治療室で全身管理され腎不全, ショック状態は徐々に改善したが, 熱が持続し炎症反応が改善しないため当科にコンサルテーションがあった。一般抗菌薬不応性であり, *C. krusei*が複数回腹水から検出されたこと, 血清 β -D-グルカンが高値陽性であったことから, 術後腹腔内感染に*C. krusei*も関与していると考えMEPMに加えてMCFGを併用したところ徐々に炎症反応は軽快, 治療は有効と考えられた。

NACの中でも比較的まれである*C. krusei*の関与が考えられた術後腹腔内感染症を経験した。*C. krusei*に対してはMCFGが有効と考えられた。

6 ホスホマイシンの新しい作用の探索

西山 晃史・近 幸吉*・田邊 嘉也**

下条 文武**・山本 達男

新潟大学大学院・医歯学総合研究科・細菌学分野

県立坂町病院・内科*

新潟大学大学院・医歯学総合研究科・臨床感染制御学分野(第二内科)**

ホスホマイシン(FOM)は広範な抗菌スペクトルを持つ細胞壁合成阻害薬で, 感染症領域で広く使用されている。FOMは抗菌活性以外に免疫修飾作用を有することが報告されている。他剤との併用において難治性感染症への有効性も示唆されている。本研究はFOMの新規作用の探索を目的とした。FOMによる長時間処理(4h)によりヒト白血球のToll-like receptorの発現量が変化するので, 同条件下での自然免疫(炎症性サイトカイン産生)に対する影響を検討した。エリスロマイシン(EM), クリндаマイシン(CLDM)との併用時の効果も併せて検討した。LPSによるTNF- α , IL-8産生はFOM処理により有為に増加した。この効果はEMとの併用によりさらに増強された。一方, CLDMとの併用はFOMの効果に影響しなかった。FOMとEMの効果は自然免疫系の活性化を介した生体防御に貢献する可能性が示唆された。

II. 特別講演

子宮頸癌の発生メカニズムとHPVワクチン

— Translational reserchでがん予防が可能に —
自治医科大学附属

さいたま医療センター産科婦人科教授

今野 良